

所報



巻頭言

ひろしまの子どもたちに身に付けさせたい学力

広島大学大学院教授 小原友行



「国際平和文化都市広島」に生まれ育った子どもたちが大人になり、次世代の親になる10年後、20年後の社会を輝いて生きていくために必要な栄養、それが「ひろしまの子どもたちに身に付けさせたい学力」であろう。それはどのような力であり、なぜそれが今求められているのか、そしてどう育成していけばよいのか、以上の三つの問いにここでは答えていきたい。

広島市に生まれ育った子どもたちに身に付けさせたい学力として、次の三つの力を提案したい。

- ① 国際的コミュニケーション力
- ② 協同的文化創造力
- ③ 人間関係形成力

①は、平和な国際社会の実現をめざして世界の人々と交流していくために必要な力である。②は、共通の目的に向かって他者とかかわりながら、新しい平和文化を創造していくような力である。そして③は、人と人とかかわりを生み出していく力である。これらは、どんな時代に生きようとも、どんな国に住もうとも、人間として普遍的に大切な資質や能力でもあろう。

このような力の育成が求められる背景としては、大きく次の三つの理由が考えられる。第1は、広島市の「めざす子ども像」との関連である。「ヒロシマを受け継ぎ、地球的視野で考え、相互の基本的な人権を尊重し、よりよい人間社会の創造のために貢献し、国際社会に通用する広島人になるとともに、地域で平和のために

汗の流せる人になってほしい」、これは広島市民の変わらぬ願いでもある。第2は、これからの時代を生きていくために必要な力との関連である。子どもたちが社会人となり、次世代の親となる2015～2025年、社会のグローバル化、高度情報化、価値多様化、環境問題、超少子化などの課題はさらに深刻化していると考えられる。そのような社会の変化の中で、人のために尽くすことのできる力の育成が求められている。第3の理由は、今の子どもたちに足りない力との関連である。経験や体験の不足、社会性や社会力の未成熟が指摘されている。また、最近の国際学力調査では、事象の背景を熟考し、自分なりの意見や考えをもち、それを表現しながら社会参加していく力（「リテラシー」）が十分育っていないとの報告がなされている。

では、このような力をどのように育成していけばよいのであろうか。そのために学校・園が用意するものが、栄養である学力を確実に形成するためのカリキュラムや学習指導計画である。例えると、栄養が豊富に含まれた粉ミルクである。また、この粉ミルクを溶かすために必要になるのがお湯、すなわち教師による授業の中での学習指導の工夫である。広島市では、「ひろしま型カリキュラム」による新しい学校教育が始まろうとしている。学校・家庭・地域の教育力を結集させて、子どもたちを生涯輝く大人に育てるための質の高い粉ミルクとお湯を開発していくことが、今求められている。

もくじ	○巻頭言 P. 1	○年次別研修受講者の声 P. 4
	○研修講座だより③ P. 2	○所内情報 P. 5
	○研修講座だより③ P. 3	○教育センターひろば P. 6

研修講座だより③

～ 2月までに実施した研修(一部)の概要をご紹介します。～

教 養 講 座

主題 「子どもの脳をいかにはぐくむか」

講 座 の 概 要

講師 人間性脳科学研究所所長 澤口 俊之 先生



「教養講座」は、各分野で広く活躍しておられる講師の方の話聞くことを通して、受講者のみなさまに、教育実践を行ううえでの視野を広げていただくことをねらいとして実施しています。

本年度は、札幌から、人間性脳科学研究所所長の澤口俊之先生（元北海道大学大学院医学研究科教授）を講師としてお招きしました。澤口先生は、人間性を伸ばす教育について、脳科学の立場から明快に説明していただきました。

人間らしさの知能をあらわす“HQ（人間性知能）”がよく発達していれば、未来志向的で、問題解決能力が高く、個性的・独創的、理性的・協調的で、優しく思いやりがある。一方、HQの発達が阻害されると、自己中心的で（責任転嫁）、ルーズな生活を送ったり（無計画・無気力）、指示待ち・人まね、他人の心の痛みがよくわからないために、思いやりが欠如するといった問題が生じやすくなるということです。その要因として①過保護や過干渉、②過度なTV視聴、③TVゲームのしすぎなどが考えられるようです。

したがって、幼児期から“IQg（一般知能）”のみならず、この“HQ”を発達（促進）させることの大切さと方法を紹介していただきました。

HQを発達させる方法

- ①身内の人と遊んだり、話をしたりして過ごす。
- ②屋外で遊具を用いて遊ぶ。
- ③本を理解しつつ速く読む。
- ④ほめて育てる。
- ⑤しつけをしっかりとする。など

いじめの問題をはじめ、すぐキレル子、ニートなど、教育の様々な課題の解決の糸口となればと思います。

授 業 実 践 基 礎 講 座

主題 「授業リフレクションを通じた授業の改善・充実」

講 座 の 概 要

教育センターでは、教職経験2～5年の先生方を対象に、各学校における授業実践への個別支援とその振り返り（リフレクション）を通して、自己の授業力のより一層の向上を図っていただくことを趣旨として「授業実践基礎講座」を開設しました。

小学校の16名の先生方が受講され、第1日（5/16）は、藤村主任指導主事（事）主任が、『授業研究ハンドブック』（平成17年3月）を基に授業リフレクションの意義を中心にお話ししました。その後、担当する指導主事2名とこれまでの実践を振り返って自分の課題を話し合い、今年度の目標を決めて取組を進めていただきました。

第2日は、受講者が授業力の向上を希望される各教科・領域の課題に沿って、学習指導案の作成時から個別に相談に応じ、授業日には指導主事が学校を訪問して授業を参観しました。授業後、具体的な授業場面を取り上げて振り返りを行うことで、自分の実践のよさや今後の改善の方向性に気付いていただけたようです。

第3日（2/14）は、各自の実践を持ち寄り、担当の指導主事と小グループで交流・協議し、自己の課題に沿った1年間の振り返りを行う中で授業力等の伸びを実感していただいたようです。「指導案を作るときに、指導主事の先生方に直接話が聞けてとてもよかった。」「児童の実態や自分の課題に応じた授業展開を工夫することができて、とても勉強になった。」などの感想をいただきました。また、所属校の校長先生からも「きめ細かな指導をしていただき、受講者だけでなく、学校としても勉強になった。」という評価をいただきました。



いじめの問題に係る研修講座

主題 「いじめの問題の理解とその対応」

講座の概要

講師 スクールカウンセラー 樋口 啓子 先生



緊要な教育課題である、いじめの問題について、12月4日に臨時講座を実施しました。スクールカウンセラーとしてご活躍中の樋口啓子先生（臨床心理士）を講師としてお招きし、いじめの仕組みと背景、いじめの問題を生じさせないために学校・園や教師が考えておくべきこと等について、講義とアサーショントレーニングをしていただきました。

後半は、三つの事例について、「すぐに対応しなければならないことは何か」、「長期的に対応することは何か」、「個々のこどもに対してはどう指導すればよいか」、「クラス全体に対してはどう指導するか」、「学校組織としてはどう対応するか」等の視点から小グループで協議して、樋口先生から具体的なアドバイスをいただきました。

いじめの問題にさせないために学校・園や教師が考えておくべきこと

- ① 子どもの言動からいじめを察知できるような感覚を持つことが大切である。
- ② いじめられる側、いじめる側双方の気持ちをしっかりと理解する姿勢が大切である。
- ③ 子どもたちが、自分の思いをきちんと表出できる学級づくりや、あせらず、じっくり子どもたちにかかわる学校づくりが求められている。

受講者からは、「普段から学級の実態をしっかりつかんでおくことが大切と感じました。」「事例を考えることで、日々の自分の対応がどうなのかということ振り返る良い機会になりました。」「事例研究を校内研修会でも行って、お互いに自分たちの実践を見つめ直す機会にできればと思いました。」などの感想をいただきました。

ひろしま理解講座

主題 「ひろしまの魅力と私」

講座の概要

教育センターでは、広島を拠点として活躍されている方々の生き方や考え方にふれることを通して、郷土広島の良さを生かした教育活動を推進していくために必要な見識や資質を高めることを趣旨として「ひろしま理解講座」を開設しました。

この講座の記念すべき第1回の講師として、ヴィオラ奏者の沖田孝司先生をお迎えしました。

講座では、広島にちなんだ曲や沖田先生の思い出の曲などの演奏とお話を通して、改めて「ひろしま」について考える機会となるとともに、一つの物事でもいろいろな角度から見ることによって新たな発見があることや自分の思いを相手に伝えることの大切さなどを教えていただきました。

講座終了後も、会場全体が感動の余韻にひたっている雰囲気でした。94名の受講者の方々からは、「一つの方向だけでなく、色々な角度から見ることの大切さを学びました。これからは積極的に、広島の良さを見つけたり、伝えたりしていきたい。」「ふるさとを誇りに思えるような教育を積極的に実践していきたい。」など、感想をいただきました。

講師 ヴィオラ奏者 沖田 孝司 先生



新規採用教員研修講座

新任の先生方に、教育者としての使命感や教科指導および学級・保健室経営などに関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力を身に付けていただくことをねらいとして実施している研修です。今年度は、小・中・高・養護学校の108名の先生方が、講義や協議、授業研究や演習など、熱心に取り組まれました。

新規採用教員研修講座から得たもの

上安小学校教諭 小田美智子

新任の時にしか受けることのできない研修を通して、出会った素晴らしい先輩の先生方と、いつも心の支えとなっている同期の仲間とのつながりが、私の宝物となりました。この出会いを大切に、多くのことを吸収しながら素敵な教師に成長していきます。

教職経験2年次教員研修講座

98名の先生方が、広島市内のデパート、スーパーマーケット、ホテル、社会福祉施設等の19企業25箇所の研修先で、5日間の研修に取り組まれました。教育者としてのプロ意識を高め、相手意識を持って児童生徒・保護者に接することの大切さを理解する研修となりました。先生方の前向きで真面目な研修姿勢は研修先の担当者の方々から高い評価を得ています。

2年次研修を通して

矢野中学校教諭 吉田 修久

アンデルセンで研修し、パンの製造や接客を体験しました。「個々の責任」「相手への説明責任」「お互いの信頼関係」が重要であると感じました。この三つは、学校組織においても共通して重要な点であると考えます。この研修で学んだことを学校現場で応用し、生かしていこうと思います。

教職経験6年次教員研修講座

学習指導、生徒指導、学級経営、授業研究等の基本的・今日的な内容を学び直す講座です。28名の先生方は、5年の経験を経て、実践上の課題を明確に意識されており、解決に向けて主体的に研修に取り組まれました。特に演習・交流の場面では、悩みや課題、それに対する意見やアドバイスを率直に伝え合い、真摯に学び合う姿は頼もしい限りでした。

6年次研修を経験して

祇園中学校養護教諭 中道 都

「学校の保健室で働きたい。」という夢を叶えて5年間。この度の研修は、その5年間を振り返るよい機会であり、将来どんな養護教諭になりたいかを改めて考える時間でもありました。これではではなく、多くの方から学び、継続して成長していこうという気持ちが大切だと感じました。

教職経験11年次教員研修講座

これまでの10年間の教育実践を振り返るとともに、さらなる指導力等の向上を図るための講座です。

61名の先生方は、教科指導、生徒指導、学級経営等に関する内容について、学校・園における授業研究や教育センターでの模擬授業などの研修を行い、教育実践力を高めています。

研修を終えて

安佐北高等学校教諭 舟橋 宏昌

今年度は、校内外を問わず様々な研修に参加させていただきました。どの講座においても新鮮な発見があり、慣れの中で行っていた日々の実践に新しい風を吹き込むことができたように感じています。11年次研修はまもなく終了しますが、研鑽を怠ることなく今後も努めて行きたいと思います。

教職経験16年次教員研修講座

自分で設定したテーマに基づいて一年間課題研究を進めていく研修です。校種別・テーマ別に、6～7名程度のグループに分かれ、担当の指導主事とともに、互いの研究経過の報告に基づき、意見を交流し、実践を見直すという演習形式の講座です。本年度は、123名の先生方が受講されました。研修の成果は、学校・園での実践の中で生かされています。

子どもたちと共に

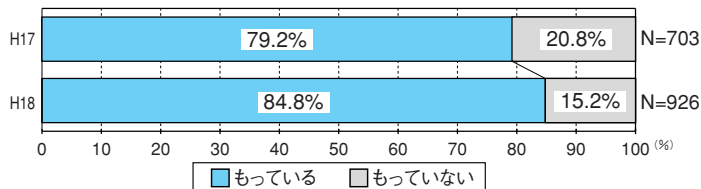
阿戸幼稚園教諭 上松由美子

「言葉で表現できる幼児を育てるための教師援助」について研究しました。子どもたちの成長を実感することができ、私の専門性や実践的な指導力も向上していると感じました。今後も幼稚園教諭として、人として、自分自身を磨き、子どもたちと共に成長していきたいです。

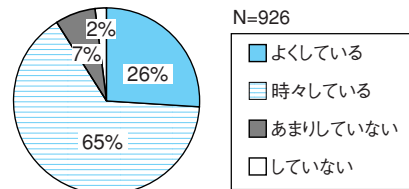
教育センターの事業に関するアンケート

今年度も、昨年度に引き続き「教育センターの事業に関するアンケート」に、たくさんの教職員の皆様にご協力いただきありがとうございました。ご回答いただいたアンケートの中から、昨年度と経年比較できる内容や、今回、新たにお聞きした内容の一部を紹介します。

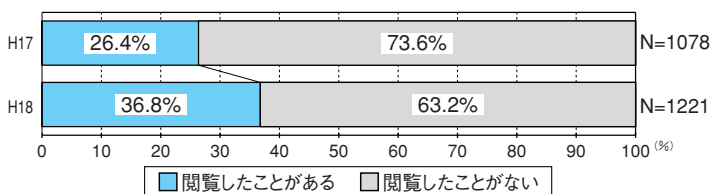
1 受講した研修内容を学校・園で共有する機会の有無



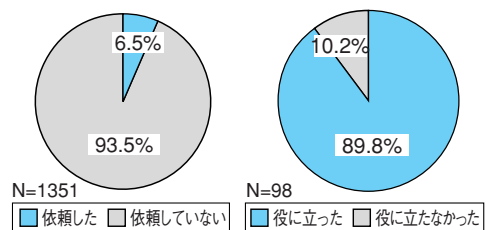
2 研修したことを実践上の参考にしているか



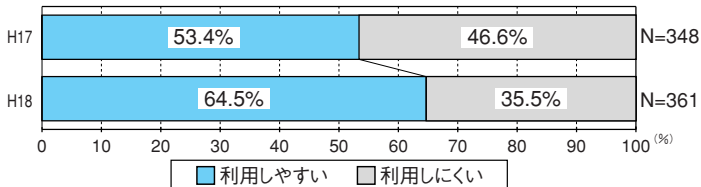
3 教育センター内部 Web ページの閲覧状況



4 教育実践相談の依頼の有無と有効性



5 図書資料室の利便性



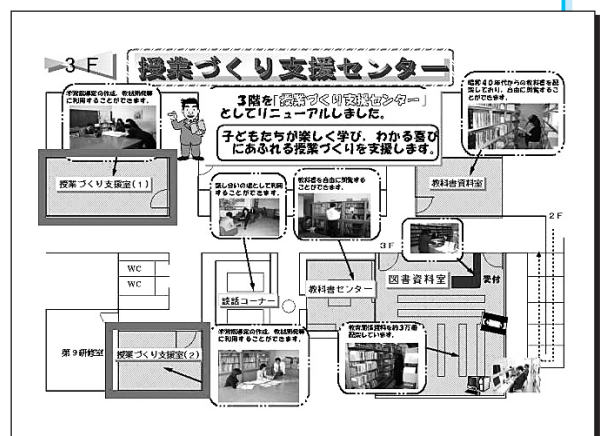
研修内容を「共有化している」、「実践上の参考にしている」、教育実践相談が「役に立った」が80%～90%ありました。一方、図書資料室の利用やWebページの閲覧については、昨年度よりも肯定的な評価をいただいておりますが、まだ十分とは言えません。これらの結果を基に事業の工夫・改善を行い、各学校・幼稚園から「頼りにされる教育センター」を目指します。今後とも教育センターをご活用ください。

授業づくり支援センター ご紹介

3階フロアに、授業づくり支援室(1)、(2)を設置し、図書資料室、教科書資料室、教科書センターを一体化して、フロア全体を「授業づくり支援センター」としてオープンしています。授業づくり支援室(1)、(2)は、個人やグループによる指導案作成や教材づくりの場としてご利用いただけます。ご希望に応じて指導主事が支援をいたします。是非、ご活用ください。

授業づくり支援室(1)、(2)で活用できるもの

学習指導案、通知表、よい子のあゆみ、教育雑誌、全国大会等の研究紀要、教育委員会刊行物、授業ビデオ、エルネット配信された講習会等のビデオ、インターネット等



～授業づくり支援室(1)、(2)の利用について～

部屋が空いている場合は、自由にご利用いただけます。また、事前に利用申込みをすることもできます。詳しくは、担当の清水、嵐森までご相談ください。

教育センターひろば

● 研究協力員・研究協力校 ●

教育センターでは、指導主事が研究を進めるに当たり、次の学校・園に、データの収集や先進的な授業実践等の協力をお願いしています。

「少人数教育のよさ」を生かした教育指導の工夫改善に関する研究Ⅱ

研究協力校 上温品小学校

校長 池乃本正子 研究推進代表者 藤井 勝巳

研究協力校 上安小学校

校長 空間 浩道 研究推進代表者 上向井佳子

研究協力校 鈴張小学校

校長 多田 昭枝 研究推進代表者 森川 友美

研究協力校 祇園東中学校

校長 北川 威子 研究推進代表者 久保 肇

授業研究ハンドブックⅢ (授業力を高めるための自主研修の進め方)

研究協力員

森貞小百合(袋町小) 石田 知己(高須小)
小林 伸行(安佐中) 加納 隆広(安佐北高)
井筒 敦子(矢賀幼)

教育用コンテンツの開発・作成に係る実践研究Ⅲ

研究協力員

永井 勝郎(二葉中) 岡廣 徹(城南中)
荻野 哲也(高取北中) 石原 忍(口田中)
和泉 秀夫(城山中) 西山 晴美(江波中)
河野 緑(宇品中) 甲斐 式部(三和中)
宮奥 紀恵(安佐中) 小早川 透(宇品小)
國川 昌司(三和中) 瀬戸 幹夫(広島養護)

● ロビー展示及びリーフレットの配布 ●



ロビーでは、教育に関する最新の情報や教育センターの事業に関する情報などを紹介しています。

来所された際には、掲示をご覧ください。また、日々の実践に役立つリーフレットを用意しておりますので、ぜひお持ち帰りください。

今年度のロビー展示及びリーフレットの内容

- 「今ほしい情報がより身近なところに!!」
- 「効果的な授業研究の方法があります!!」
- 「授業づくり支援センター」

他のリーフレットの内容(一部)

- 「教室掲示をデザインしてみませんか」
- 「工夫しよう!教室と家庭をつなぐ学級通信」
- 「学校における個人情報保護のための配慮事項」
- 「プレゼン指導どう行う?」
- 「カウンセリングテクニックを授業に生かしましょう!」
- 「子どもの安全指導に関する教育関係資料の一覧」
- 「学校評価システムにおける外部評価の活かし方」

● 館内作品展示 ●

広島市立学校、幼稚園の教職員のみなさまの作品(絵画、写真、書、彫刻、工芸)を館内の各所に展示しています。

おかげさまで、教育センターが、年間を通して、豊かな文化の香りとともに、憩いや潤いに包まれています。



館内の作品展示にご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

題字「所報」…広島市立亀崎幼稚園園長 安永 智子
表紙絵「ひろしま」…広島市立本川小学校校長 奥原 球喜

編集後記

今年度最後の所報をお届けします。毎回、みなさまの研修・研究等のお役に立つものにしようと思いがけてまいりました。ご意見ご感想、または、今後取り上げてほしい記事などご要望があればお寄せください。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL (082) 223-3563
FAX (082) 223-3580
E-mail:center@center.edu.city.hiroshima.jp

外部Webページ:

<http://www.center.edu.city.hirosima.jp/>

内部Webページ:

<http://192.168.6.10/>

広X6-2006-11(3)